

シリーズ

お互いの方でまちづくり

日本ふるさと塾主宰・萩原茂裕

これまでに、「スキーのメツカ・野沢温泉村」「太陽と緑の国・宮崎県」「ワインのまち・池田町」を紹介しましたが、これらのまちは、これからのまちづくりにとつて、たいへん参考になります。

その一番のベースにあるものは何かといえますと、まちづくりは人づくりだということです。

企業は人なり、あるいは組

織は人なりといいますが、まちづくりにも同じことがいえるのです。

マイナス指向で
物事を考えない

この人づくりの底にあるのは、「感謝」ということです。昭和63年の春、四国と本土を結ぶ瀬戸大橋が開通しました。世紀の大偉業といわれるだけ

何十倍の恩恵を

まちの発展で

報いる



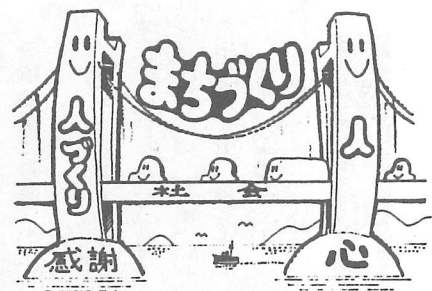
次代を担う子どもたち

感謝の心をもっているか

あって、その橋脚は一つ一つが巨大ビルのようなものです。建設途中にその偉容を眺める機会があり、つくづくと人類社会に不可能はないと

考えさせられたものです。

そしてその夜、この瀬戸大橋の恩恵を最大といつてよいほどに受けるまちの講演会に出かけました。講演が終わり、まちの有志の人たちの話しをうかがっていると、「こんな大きな橋



えることもできるのではないのでしょうか。

住民の意識と
やる気が
まちを左右する

ある事をプラスの材料にしていくかどうかは、住民のみなさんの意識とやる気に大きく左右されると思います。そして、さらに「感謝」の心がこもれば、おのずから考え方も行動も変わってくるのではないのでしょうか。

いまは、どんなまちにも、立派な運動施設や文化会館が建っています。しかし、感謝の心がなければ、宝のもちぐされになってしまいます。一人ひとりが感謝の心をもてば、その施設は何十倍の価値を生みだし、本当に生かされて使われるのです。

心の角度を変えて自分のまちを眺め、そのまちで生きていくことに感謝する人たちが増えれば、まちは伸びていくのです。

がかかれば、このまちは通過都市になってしまふ」という話題がもち上がりました。橋が、まちの発展にとつて、マイナスになるのではな

いか、と受け取ったようです。しかし私は、このような橋を一つもっているならば、「陸の孤島」が解消できるまちや村が、現在日本国中にたくさんあるに違いないと考えました。「通過都市になってしまふ」というのではなくて、「みなさんより何十倍の恩恵を受けている。尊い税金をたくさん使わせてもらっている。そ

のご恩に報いるために、素晴らしいまちづくりをさせてもらいます」と、そんなふうに考